

第30回 少年ジェット「希望の翼」 研修報告書





CONTENTS

01 表紙

02 目次

03 派遣団員名簿 海外研修行程表

04～23 研修報告

- 04 少年ジェット「希望の翼」の軌跡
- 07 伊藤 昂（栗山町教育委員会）
- 08 福井 花歩（岩見沢西高等学校 2年）
- 10 山内 優奈（岩見沢西高等学校 2年）
- 12 片岡 えり（岩見沢東高等学校 2年）
- 14 小野 美優（岩見沢東高等学校 2年）
- 16 廣岡 未来（岩見沢東高等学校 2年）
- 18 古田 姫花（岩見沢農業高等学校 2年）
- 20 浅井あみか（栗山高等学校 2年）
- 22 大高 和希（岩見沢農業高等学校 1年）
- 24 後藤 陽太（栗山高等学校 1年）
- 26 橋元 友菜（札幌日本大学高等学校 1年）

28 少年ジェット「希望の翼」 活動をプレイバック

30 PHOTO ALBUM

32 裏表紙

栗山町では外国でのホームステイ体験や交流を通じて、国際感覚豊かな青少年育成のため、町内の中学生・高校生を海外に派遣する『少年ジェット「希望の翼」』事業を、平成2年（1990年）から実施しています。

今回派遣されたのは高校生10人。派遣団員は9回の事前研修でホームステイの心得や英会話の学習を行い、海外研修に備えてきました。

パースでの研修は1人1世帯、4泊5日のホームステイでのホストファミリーとの交流、班別行動、施設見学などさまざまな体験をとおしてオーストラリアの文化や歴史について学習しました。

本書では、第30回少年ジェット「希望の翼」派遣団のオーストラリアでの海外研修を報告します。

少年ジェット「希望の翼」 2

派遣団員名簿



海外研修行程表

月 日	場 所	時 間	交通機関	内 容
1日目 令和 2 年 1 月 5 日(日)	総合福祉センター 総合福祉センター発 新千歳空港発 中部国際空港着 中部国際空港発 香港国際空港着 香港国際空港発	8:30 8:45 11:30 13:20 16:10 19:55 21:20	バス JL3106 便 CX539 便 CX143 便	出発式 出発式終了後・栗山町から新千歳空港へ 搭乗手続き・新千歳空港から中部国際空港へ 中部国際空港から香港国際空港へ 香港国際空港からパース空港へ
2日目 1 月 6 日(月)	パース空港着 パース市内	5:00 15:00	専用車	入国手続き後パース市内へ パース市内見学（コテスロビーチ・キングスパーク・造幣局・パース市内散策） ホテル・シーズンオブパース到着
3日目 1 月 7 日(火)	パース	10:30 12:30 15:00	専用車 ホスト送迎	ホームステイオリエンテーション 英語レッスン ホストファミリーと対面 各ホスト宅へ
4日目 1 月 8 日(水)	パース	9:00 13:00 16:00	専用車 ホスト送迎	カバシャムワイルドライフパーク AQWA 水族館・ヒラリーズボートハーバーでショッピング ホスト宅へ
5日目 1 月 9 日(木)	パース	9:30 14:15	専用車 ホスト送迎	ミニゴルフ ピクニック・アボリジニ文化体験「ディジュリドゥ」 ホスト宅へ
6日目 1 月 10 日(金)	パース			ホストファミリーと自由行動
7日目 1 月 11 日(土)	パース	8:30 9:30 18:00	ホスト送迎 フェリー 交通機関	ホストファミリーとお別れ ロットネスト島で観光 ホテル・シーズンオブパース
8日目 1 月 12 日(日)	パース空港発	9:00 12:00 21:00 23:45	徒歩 専用車 CX170 便	パース市内散策（アートギャラリー、市役所庁舎前、スターリングガーデン） 班別行動 パース空港着 パース空港から香港国際空港へ
9日目 1 月 13 日(月)	香港国際空港着 香港国際空港発 新千歳空港着 総合福祉センター	7:45 9:10 14:50 17:00	CX580 便 バス	搭乗手続き、香港国際空港から新千歳空港へ 入国審査、新千歳空港到着後、栗山町へ 解散式

- 2019/05/07 実施起案
- 2019/05/13 募集チラシ配布
- 2019/06/26 栗山高校枠決定
- 2019/06/30 面接
- 2019/07/02 派遣団決定
- 2019/08/22 結団式・説明会
- 2019/09/06 事前研修(至2020/01/04)
- 2020/01/05 本研修(至2020/01/13)
- 2020/02/11 事後研修(至2020/03/27)



少年ジェット「希望の翼」の軌跡

1月5日 日 いざ出発

総合福祉センター「しやるる」で第30回少年ジェット「希望の翼」出発式を行いました。南條教育長が「次代を担う皆さんに大きな期待をしています。どんなことにもチャレンジしてください。」と激励。福井花歩団長は「10人で考えた研修スローガン『We can do it!』を実践し、いろいろなことに挑戦、吸収して帰ってきたい」と決意を述べ、保護者に見送られ新千歳空港に向かいました。

今年度は目的地パースまでに飛行機3便を利用しました。まず、新千歳空港で手続き後、JL3106便に搭乗。次の中部国際空港では出国審査を済ませ、搭乗ゲートへ進むと、そこからは本格的に辺りが外国の方ばかりで英語が飛び交い、現実から遠ざかるかのようでした。CX539便で香港に到着し、乗り継ぎ手続き後、パース行きCX143便に乗り込みます。機内では映画を見たり機内食を食べたり充実したサービスの中ゆったりとした時間を過ごすことができました。

1月6日 月 パースに到着

出発してからおよそ丸一日かけてパースに到着。入国審査カードの記

入、入国審査に戸惑いながらも、無事にオーストラリアへ足を踏み入れました。しかし、荷物を受け取ったところ「スーツケースに傷が!」「キーホルダーが壊れている!」といった声が多数。日本と外国の荷物の取り扱いの差に困惑した様子でした。出口に向かうと、株式会社DOAのガイドスタッフ豊田誠さんにお出迎えしていただきました。空港の外に出ると灼熱の太陽が団員を待っていました。この日の気温は34℃。真冬の北海道から真夏のパース。この急激な気温の変化に体は相当ビックリしたことでしょう。

まず、最初に向かったのはコテスロビーチ。雲一つ無い青空に負けないきれいな青い海と真っ白な砂浜に、昨日までの移動の疲れを一切見せず、団員たちは砂浜で大はしゃぎしていました。次に向かったのはキングスパーク。



コテスロビーチ

1月7日 火
ついにホストファミリーと対面

パース市内のビルをバックにスワンリバーが一望できる景色、大きな記念碑の手前には消えることのない灯。その周りを囲んだ石のベンチに座ると、なんと離れた場所に座る団員同士のささやき声が聞こえる不思議な時間でした。昼食は、ハンバーガーとチップス（フライドポテト）です。とてもおいしくほぼ全員完食し、お腹一杯になりました。みんなの様子を見て豊田さんは「ここ数年の中で一番元氣な世代のように感じる」とお墨付きを頂きました。全員が初めての海外で緊張もあり、終始興奮状態だったのでしょうか。その後、パース市内での自由時間をもらって班ごとに買い物へ。研修のために換金したオーストラリアドルを初めて使いました。この日最後に向かったパース造幣局では、金塊を作るショーを見学したり実際に金塊を持ったりしました。きれいな金の展示品を見て心もキラキラに。宿泊するシーズンオブパースホテルでチェックインした後、ホテルの隣のビュッフェレストランにて夕食をとりました。前日までの移動もあって疲れがたまっていた団員達。この日は一同早めに就寝して疲れを癒します。

いよいよこの研修最大のミッションであるホームステイが始まる日を迎えました。4泊5日のホームステイで団員たちはどれだけ挑戦することができのでしょうか。少なからず不安はあったでしょうが、晴れ晴れとした表情で朝食を食べる団員たちから逞しさや頼もしさを感じました。研修会場までは豊田さんに送迎していただき、「商事オーストラリア」オフィスに向かいました。オフィスに着くと、お世話になる竹沢美津江さんが迎えてくれました。美津江さんからホームステイのマナーなどのオリエンテーション、ジェニファー先生からは遊びを交えながら英会話のレッスンを受けました。自己紹介や挨拶、オーストラリア特有の言い回しなど楽しみながら学びました。そしてついにホストファミリーが迎えにきました。近づくにつれて緊張したり興奮したりで、次第に落ち着きが無くなってくる団員たち。ホストファミリーが到着すると英会話レッスンで習った通り笑顔で自己紹介したりハグをしたり、コミュニケーションを取りながら一人また一人とホストファミリー宅へ向かっていきました。

1月8日 水
バディと遠足



AQWA 水族館

朝、みんなと集合して団長の花歩にFace book用にインタビュー。「昨日、初めてのホームステイを過ごしてみてどうでした？」の問いに対し「思ったより全然英語が話せなかった・・・」という回答でした。他の団員に聞いても同じような答えです。「大丈夫かな？」心配になる早朝でした。この日は、バディと遠足。午前中はカバシャムワールドパークに行きました。オーストラリアといえばコアラ、カンガルー。動物たちに触れあう貴重な機会です。実際に触ってみました。昼食は各自に写真を撮ったりしました。昼食は各自ホストマザーお手製のお弁当。たくさんさんの具材が入ったサンドイッチやフルーツなどそれぞれで文化を感じながら真心こもったお弁当を堪能しました。午後からはAQWA水族館へ移動。日本とはまた違った雰囲気の水族館で



ヒラリーズボートハーバーにてバディと集合写真

す。団員達と年が近いバディたちも水族館にテンションが上がったのか、どんどん先の展示コーナーを進んでいきます。団員の中には手を引っ張られながら進んでいく姿も。動物園や水族館を楽しむ光景は、世界共通です。

1月9日**木** バディと遠足②

この日もバディとの遠足。午前中はミニゴルフを行いました。昨日に比べてバディとの距離が近くになったか。英語が分からずともコミュニケーションを取ろうとする姿が昨日以上に見受けられました。一緒に応援したり、声を掛け合ったりと、仲良く交流できました。午後からは、美津江さんの娘さんのモネさんにもサポートに入っていたいただき、ピクニック形式でランチ。ホットドッグやフルーツといった海外らしさを感じるランチをいただきました。食後は、アポリジニ文化体験「ディジュリドゥ」を行いました。先住民族アポリジニの使用する伝統的な楽器を吹き、音を出すのにみんな苦労するも、中にはセンスがあるとお墨付きをいただいた団員もいました。活動終了後は、ホストのお迎えが来るまでバディたちとキャッチボールやフリスビーなどを楽しみながら交流していました。

1月10日**金** ホストとの一日



シュノーケルを楽しむ団員

この日の団体行動はお休み。それぞれのホストファミリーと過ごす日でした。各ホストファミリーによって内容はさまざま。ショッピング、ボウリング、シュノーケルなどそれぞれの楽しみ方で一日を過ごしました。

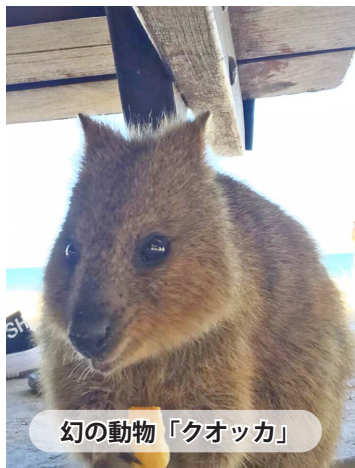
1月11日**土**

ホストとの別れ・ロットネス島

ついに4泊5日の間お世話になったホストファミリーとお別れ。別れ際に、抱き合ったり、熱い握手をしたり、何度も振り返って手を振ったりと「まだ帰りたいくない」という気持ちが伝わってきました。また、英語で書いた手紙を渡したり、連絡先やSNSを交換したりと、別れをみんな惜しみながら、再会を約束しました。

ホストファミリーと別れた後、観光

地のロットネス島に向かいました。ロットネス島は国立公園として国が管理しておりオーストラリアNo.1になったことがある観光地。この日は、美津江さんとワーキングホリデーで日本を訪れていたライフセーバーの野々村祐二さんのサポートのもと活動。最高気温が34℃を記録する猛暑日でしたが、団員たちは午前中サイクリングを楽しみながら移動し、ビーチで思う存分に楽しみました。また、世界一幸せな動物と言われている幻の動物「クオッカ」に出会うことができました。



幻の動物「クオッカ」

1月12日**日**

グッドバイ、オーストラリア

最終日は美津江さんのガイドのもと、ホテル周辺の市街地を散策しました。とてもきれいで立派なビルが立ち並ぶ街中、市役所前やアートギャラリーでオーストラリアの文化に触れました。午後からは、班ごとに自由時間としてお土産散策に出かけました。2

班に分かれての活動でしたが、最終的には団員全員で散策したとのこと。本当に仲良しな団員たち。食後、豊田さんに空港へ送っていただき、深夜0時頃、オーストラリアとお別れし、日本へ出発しました。

1月13日**月** ただいま。栗山町

香港を経由し、15時頃に新千歳空港に到着。9日ぶりに北海道の大地を踏みました。真っ白の雪景色を見て故郷に帰ってきたのだと全員がしみじみと感じました。解散式では橋元友菜副団長が代表し「いろいろ大変なこともありましたが、みんなで貴重な体験ができました」と感想を述べました。その言葉どおり、実際に現地で見えてきたことで、間違いなく団員たちの視野や価値観は広げられたと思います。その後、団員一人ひとりが感想を発表。「みんなと協力しながら研修ができた」「海外の生活リズムに驚いた」「不安だったけどたくさんコミュニケーションが取れてよかった」など、こんがりと日焼けした顔でたくましく堂々と発表していました。



海外研修を終えて

～研修での「繋がり」を大切に～

栗山町教育委員会 伊藤 昂

来

年度のジェット担当は伊藤君にしよう。3月下旬、私の上司で

あるM山さんのこんな言葉から始まり、私は令和元年度の少年ジェットの担当となりました。役場に入庁して2年目の24歳。過去29回の中で最年少での引率です。海外に行く事は私も初めてでしたが、今年度のチラシを作成しながら、どんな子たちが応募してくるのだろうとワクワクしていました。

出発に向けてどんな事前研修を行うかを決定した名簿を眺めながら考えていました。学校での活動、資格の取得、その他研修の受講歴などを見て、きつとできるだろうと期待を込めて、例年より事前研修を多く組み込みました。アイスブレイク、イングリッシュキャンプ、団旗づくりなどかなりハードに思ったかもしれませんが、これらを通じてより多くのコミュニケーションの機会を取り、しっかりと目標を持って臨んでほしいと考えて行いました。いろんな人とコミュニケーションをとるのは、簡単なようで意外と難しいものです。今年度に限っては、「みんな高校生だから安心」「リーダー研修で一緒だった」という声もありましたが、全員が深い関わりがあったわけではありません。みんながさまざまなプログラムを通じて交流していくことで、最

初はお互いに壁があったように感じたものの、11月頃からは団員同士の距離が縮まり、明確な目標を持って取り組む姿が見受けられました。

迎えた1月の研修。ホームステイ初日を終えた「うまく話せない・・・」と嘆く皆さんを見ていると正直すごく心配でした。最初は不安だらけのホームステイであったと思います。ただ、バディをはじめとした現地の人たちとの交流を通じて、「もつと英語を話したい」という気持ちが徐々に生まれてきている姿が活動を通じて見受けられました。その裏腹に、ホストとのお別れの際には「まだ帰りたくない」という声が多く聞かれました。英語や生活にも慣れはじめ、もつとコミュニケーションが取れるようになっていたいという意識が、より高くなってきていたから出る言葉だったのかなと思います。私もホームステイをしていたため、その気持ちはずごく共感できました。私は中学～大学までのある程度のレベルの英語力しかありません。当然、知識も頭から抜けている頃です。ですが、何とかコミュニケーションを取りたいと思えば交流できるものです。あくまで大切なのは気持ちだということ、団員の皆さんが一番感じたことだと思います。そして、私も正直帰りたくなかつ

たです。

そこで、みなさんをお願いします。この研修を通じてできた「繋がり」をどうか大切にしてほしいと思います。2月の事後研修に参加していただいた少年ジェットOGの金谷美咲さんは「当時のジェットの繋がりが、今の活動の原点となっている」とお話していました。今回は、ホームステイ先、ジェットの団員、川俣町、役場関係者など研修を通じて多くの繋がりができたかと思っています。また同時に、「英語について学ぶ機会」「海外での生活を肌で実感する機会」など今後の将来にも直結する研修であったと思います。「人と人の繋がり」「学びと将来への繋がり」「栗山町との繋がり」など、どのような形で生かすかは皆さん次第ですが、さまざまな繋がりは、これからの可能性を大いに伸ばすきっかけとなります。帰国後、「いつかジェットの同窓会をやりたい！オーストラリアで」という話をしていたみなさんなら、きつとこの経験を大切にしていけると確信しています。今後の活躍を楽しみにしています。

最後になりましたが、派遣団員の皆さん、保護者の皆様、ホストファミリーの皆様、多大なるご協力ありがとうございました。



「海外の文化に触れて」

岩見沢西高等学校2年 福井 花歩

私

が少年ジェットに参加した理由は、現地の文化や英語に触れることで、自分の将来のために少しでも力になればと思ったからです。

初めての海外だったため、自分の英語が本当に通じるのか、9日間生活していけるのかなど様々な心配がありました。けど、その心配も杞憂に終わってこの研修を楽しみ、そしてたくさんのことを吸収して帰ってくることができました。初めて団員たちと顔を合わせた時に、見知った顔が多いことにとても安心しました。すぐく賑やかな団員たちで、事前研修やイングリッシュキャンプなどを楽しく終えることができました。出発式が迫るにつれ、あと何日かで出発するんだと思うと不思議な感覚でした。

出発式では団長として挨拶をして、保護者の方々に見送ってもらい出発しました中部国際空港に着いて、これから日本を初めて出るのだという実感が湧きました。合計10

時間以上のフライトを終え、みんな疲れた様子でしたが、ついにパースに到着したと思うとその疲れも吹っ飛びました。日本とは違い、気温が高くてカラッとしていてとても過ごしやすい気温で、北海道とは真逆な気候に驚きながらも、爽やかな風を存分に楽しめました。私たちのスローガン「We can do it!」は「私たちはできる!」という意味で、初めての海外でもなんでも挑戦して色々なことを経験してくるという意味をこめました。このスローガンになりました。パースに到着後、豊田さんの案内の元、コテスロビーチやフリーマントル、パースミントなどを巡り、日本とは違う街並みを楽しみながらパースの空気を感じることもできました。市内散策ではお土産を見て回ったり、スーパードに行つて、日本とは違う感じに驚きながらも楽しみました。

3日目には、商事オーストラリアさんと英語のレッス



ンを受け、午後からのホストファミリーとの対面に向けて現地での言い回しや単語の発音、挨拶の仕方などを学び、そしてついに午後3時にホストファミリーと対面しました。父のジェイソンが迎えに来てくれて、家に帰る前にビーチやスーパーに連れていってくれて、一緒に夜ご飯の買い物などをしてから帰りました。家に帰ると、バディのゲタンと妹のレイナ、母のサラが迎えに来て、優しいような家族で安心しました。その後部屋に案内してくれて、これからの生活に少し不安を感じましたが、楽しく過ごせそうだと思います。

4日目は、カバシャムワイルドライフパークやAQWA水族館をバディと回る予定でしたが、バディの都合がつかず、団員みんなと回りました。たった1日日本語と離れてただけでこんなに日本語を聞くと安心するんだと思って、少し驚きました。初めて直接見たカンガルーパーコアラは写真

で見るよりもとても可愛く、昔からの夢であった蛇も触ることが出来て大満足でした。帰ってきてからは、ビーチに連れてきてくれて、フィッシュアンドチップスを食べながら、ビーチを歩いたりしました。そこでイルカを遠目ながら見ることができて、「花歩はとてもラッキーだね!」と言われ、少し嬉しかったです。

5日目はバディのゲタンと一緒に行動しました。初めてのパークゴルフは難しくスコアはビリでしたが、少しゲタンと仲良くなれたかなと思いました。デジュリドゥ体験では全然音が出なくて、演奏できる人は本当にすごいなと思いました。家に帰って夜ご飯を食べ終わった後、日本から持ってきた手ぬぐいや折り紙などのお土産を渡したら、とても喜んでくれて、みんなでけん玉をして遊びました。

6日目は、レイナと2人でフリーマントルまでバスに乗って出かけました。2日目に少し見ただけだったので、

直接行つて見るとその大きさと賑やかさにとっても驚きました。大道芸人が芸をしていて、長い時間見入ってしまうくらいでした。途中からレイナの友達と3人でビーチの方や灯台なども回り、買い物もしてとても楽しかったです。帰ってきてからは熱中症になつてしまったのか気分が悪くなつてしまい、ご飯もそんなに食べられず申し訳なかったです。

7日目はついにホストファミリーとお別れで、レイナとサラが見送りに来てくれました。最後に一緒に写真を撮ってもらい、せっかく馴染め始めたのでお別れするのはすごく悲しかったです。その後、ロットネスト島にフェリーで行き、サイクリングをしながら色々なビーチに行きました。体力がなかったせいで、付いていくのがやっとでしたが、ビーチに着けばその疲れが吹っ飛ぶくらい楽しく、帰る頃にはみんなクタクタになりながらも楽しかったと語れるくらいたくさん思

い出ができました。

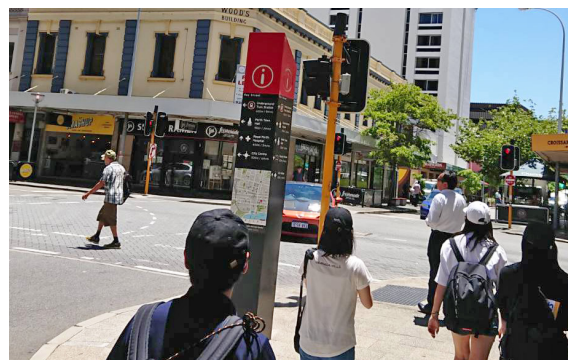
パース滞在最終日。2班にわかれ、買い物をしたりして、最後のパースを存分に楽しみました。夜になり、空港に向かうにつれみんな帰りたくないいと言つて最後まで楽しく賑やかなメンバーでした。

北海道に着いて解散式を終えた後、昴さんにサプライズでプレゼントを渡しました。この事前研修から本研修までずっと私たちのために頑張ってくれたお礼の気持ちを伝え、渡しました。とても喜んでくれてよかったです。

パースで体験したことはどれも日本では体験することの出来ない貴重な体験で、今後の自分のためになったかなと思います。団員たちとの距離も縮まり、とても楽しい研修となりました。本当にこの団員たちと昴さんで行けて本当によかったです。参加させてくれた親、町のみなさん、そして一緒に行った団員たちと昴さんにとっても感謝しています。ありがとうございました。



少年ジェット「希望の翼」





「海外の空気に触れみて」

岩見沢西高等学校2年 山内 優奈

中

学生の頃から海外に興味があって、高校生

になってから「一緒に少年ジェット応募しよう！オーストラリア行こう！」と友達と話したのがきっかけでした。

初めは、応募したからには必ず受かりたいと思い、作文を書き、面接を受けました。人生初めての面接ではとても緊張しましたが、無事に終えることができました。合格通知が届き、信じられないくらい嬉しかったです。そして、新たな目標として、日本語の通じない環境に置かれて生活し、少しでも英語力、コミュニケーション能力が向上するように努めてきました。

今回のメンバーは全員高校生ということもあり、大体のメンバーの顔と名前は知っていたのでそこまで不安はなかったです。そして、オーストラリアで少しでも英語が話せるように英語に関しての研修がたくさんあり、研修を通して団員との絆も深まり、現地に着いても困ることは無

かったと感じました。

オーストラリアでは他人の個性を尊重していて、差別的なことは一切なくて、食べ物も美味しくていい所だなと思います。そして、行く前と後では英語に対する意識が全く変わっていました。洋楽を聞くにも一つ一つの単語を少しだけピックアップできるようになりました。パスは、雨が全く降らなくて、とても暖かい、私には最高の環境でした。しかし、雨が降らないことで水がとても貴重とされているので、シャワーはとても短い時間で入らなくてはいいかもしれません。それが結構キツかったです。雨が降らないことによって、空一面雲も無く、ほんとに快晴で、海も綺麗な青で、見たことないような素晴らしい景色でした。

パスで驚いたのは、公園に犬専用の水飲み場、フンを取る袋が設置されていること、信号機が低いこと、家がとても大きいこと、プールが



る人全員がシートベルトをしないと注意を受けること、夜の8時には家中が真つ暗だったことなど他にもいろいろありましたが、気になる方はぜひ現地に行った方が実感できて良いと思います。

研修が始まって、2日目は人生初のロングフライトで寝れないままパースに到着してしまったので、かなり身体へのダメージは大きかったのですが、コテスロビーチで外の空気を吸い込むと一瞬で、疲れが吹き飛びました。

3日目は、英語レッスンである人のニックネームが英語では、おむつと言う意味を持つことに、とても笑ってしまいました。そして、そのあといいよホストファミリーとの対面でした。私は事務所で、名前が呼ばれるのを緊張して待っていました。どんどん団員が減っていった、私は最後から2番目でした。ホストマザーのミミさんが迎えにきてくれて、そのあとすぐショッピングに行きました。

そこで、コインを使う練習をしようと思って、「25ドルね」と言われて、25ドル出したつもりが、私が出したのは25セントでした。この失敗が、いい経験になり、そのあとは失敗することなく買い物ができるきました。

5日目は、ミニゴルフ、ピクニック、アボリジニ文化体験です。私はこの日が現地研修では1番楽しかったのではないかなと思います。この日は、バディのハイデンと花歩と花歩のバディのゲタンと4人でミニゴルフをまわりました。ルールがよくわからなかったのですが、バディの2人が優しくレクチャーしてくれて嬉しかったです。勝負の結果は、ハイデンと私が同率1位で勝ちました。奇跡が起きたのかなと思います、とても嬉しかったです。ランチを食べ、アボリジニ文化体験としてデイジュリドゥを吹きました。その後、お迎えまで時間があつたのでハイデンとキャッチボールをしました。

お迎えが来て、運転席を見ると年が私とそこまで変わらないうりディアが運転してて驚きました。家族の中での会話のスピードはとても速いのですが、私に対してはゆっくり理解しやすいように話してくれるので何を言ってるのかがよく伝わりました。

6日目、早くもホームステイ最終日。明日にはお別れだと言うことを考えると辛かったです。1日中ショッピングモールで買い物をして、帰宅し、ボビーのお散歩に私とハイデンとリディアの3人で行きました。そして、帰ってきたからリディアの運転でマツクにいきました。その後、ハイデンとfriendsと言うドラマを見ました。英語なのに内容が分かり面白かったです。

この研修を通して私は、また海外に行きたいと思いました。なので、職に就いてお金を貯めて海外に行くか、ワーキングホリデーを使って海外滞在してみようと思いました。

た。そのためには、会話できる程度の英語力を身につけようと思います。そして、店に入った時の「How are you?」などに対する返しをうまくできるようになりたいです。私は、現地研修に行く前に単語を出来るだけ覚えた方が良かったなと思いました。文法が分からなくても単語一つ伝えられれば少しは理解してもらえると思います。この研修を通さなければ分からないことが私には沢山あつたのでいい経験になりました。ありがとうございました。





「研修を終えて」

岩見沢東高等学校2年 片岡 えり

今

回この少年ジェットの派遣団員として、とても貴重な経験に、この事業に携わりたくさんの協力をしてくださった方々、ありがとうございます。海外に行くのは初めてで、上手くコミュニケーション取れるかな、など少し不安はありましたが、それ以上にとってもワクワクしていました。出発に向けて、団員みんなでのお土産・団旗作りなどの事前研修も楽しかったです。

1 日目は移動がメインで乗り継ぎを何回か行いオーストラリアへ向かいました。海外の航空会社の飛行機に乗った時に、話し声や機内アナウンスが日本語ではない、というのがとても変な感じがしました。同時に、ついに海外なんだな、という実感も少しわきました。

2 日目の朝早くにパースへ到着しました。空港を出た時、空がとても青くて鮮やかで綺麗で、約1時間の日本との時差もほとんど感じませんでした。とても暑い、と覚悟して行きましたが、暑苦しさもあり無く、過ごしやすかったです。そこから、ビーチや展望台、公園や造幣局などパース市内を一日観光

しました。全てが新鮮で、風景や景色もほんとに映画みたいで綺麗でした。ホストファミリーと対面する時、いざ、団員の皆と別れ1人でホームステイすると改めて考える不安になりました。私のホストファミリーはたくさん犬達と暮らしている三大家族で、お父さんは仕事で遠出していて会えませんでしたが、お母さんのリシーと娘のエレインがとても優しく迎えてくれました。思ってた以上に話すスピードが速くて、最初は2人で話している会話は全く聞き取れず、また、自分が思っていることを表現出来る英語も瞬時に出てこなくて、スムーズにコミュニケーションをとることが出来ませんでした。ですが、私が伝えたいことを理解しようとしてくれたり、逆に、伝えたいことを私がわかるまで伝え続けてくれて、だんだん緊張が薄れて、ホストファミリーのおかげで徐々にコミュニケーションがとれるようになっていきました。それがとても嬉しかったです。対面してそのまま公園や野生の動物園などへ連れて行ってくれて、一緒に話しながら散歩をしたり、写真を撮ったり、



木の下でビスケットを食べたりと、とても楽しかったです。家へ向かう移動中にも、「あれは外の映画館だよ」「あれはカジノだよ」などと気さくに話しかけ、教えてくれて、安心感が増えていきました。家へ着くとたくさんさんの犬達がいて、最初は勢いがありすぎてびっくりしたのですが、とても可愛かったです。家を案内してくれたあとに夕食と一緒に作って食べて、それもとでも美味しかったです。その時にわざわざ日本のごまドレッシングを用意してくれていて、その優しさがとても嬉しかったです。

3日目の朝ごはんの時に、オーストラリアではミルクティーをよく飲むということやエレインは卵が好きじゃないなどと教えてくれて、知らないことを知ることができて、とても面白かったです。持たせてくれたお昼ご飯は、日本のようにお弁当箱に詰めるのではなく、袋にサンドイッチのようなものやフルーツをそのまま入れていて驚きました。その後、集合場所へ向かう時、運転してくれたのがエレインで、自分と同年の子が運転していると考えると、何となく不思議で少し怖

かったです。集合場所について団員のみんなと会い、日本語を聞いたり話したりした時に、何日間も会っていない訳ではないのに、安心感をとでも感じました。カンガルーに餌を上げたり、コアラと写真を撮ったり、他にも初めて見る生き物がたくさんいたりして、とても面白かったです。中でもオーストラリアのカエルがとても大きくて色がはっきりしていてびっくりしました。水族館やマーケットへも行き、とても楽しかったです。みんなと解散した後、スーパーに行ったとき、買い物カゴと商品のサイズがとても大きくて、一回の買い物でしばらく生活できそうだなと思いました。家へ帰って、犬にドッグフードではなく大きな骨付きのお肉を上げました。それを犬達がポリポリ食べていて、あまり見えない光景だなと思いました。夕食を食べたあとに、犬達とソーセージの遊びやボール遊びをして、とてもパワフルでとても楽しかったです。その時エレインと犬達が本当に仲良しだなと、とても感じました。夜には一緒にアイスを食べながらオーストラリアのコメディを見たり、写真を見

せ合いながらお互いの話をしたり、たくさんコミュニケーションがとれ、さらに知ることができて、とても楽しく、嬉しかったです。

5日目は初めてオーストラリアの電車に乗ってゴルフ場へいき、ミニゴルフを楽しみました。同じコースで同じことを何回も繰り返し全然ボールが入らないということがあって、グループのみんなで笑ってとても楽しかったです。その後ピクニックへ行き、美味しいホットドックやフルーツを食べたあと、ディジュリドウという先住民族の楽器の体験をしました。息の入れ方が難しく吹けませんでした。面白かったです。家へ帰ったあと、エレインがドライブに連れて行ってくれて、ワッフルコーンの中にバーベキュー風味の鶏肉が入っているという日本では見かけない食べ物を食べました。とても美味しかったです。夕食はミートパイを初めて食べて、その後買い物へ連れて行ってくれて、オーストラリアのおススメのお土産などをたくさん教えてくれて買い物できたのとホストファミリーの2人も楽しそうに買い物しているように見えたので、

さらに楽しかったです。

6日目はホストファミリーと丸一日一緒に過ごしました。チョコレートファクトリーやジャム、はちみつのお店などたくさん連れて行ってくれて、たくさん買い物したり、平べったいナンのような食べ物などを食べたりしました。少し不安もありましたが、あつという間に過ぎてとても楽しかったです。夕食のあとにホストファミリーと会ってから1番話をして、もっとたくさん一緒に過ごしたいと思いました。

7日目にはいよいよホストファミリーとお別れをして、ロットネスト島へ行き、自転車に乗りながら島を回って、ビーチで遊んだりしました。とても綺麗で、クオッカにも会えて嬉しかったです。

8日目はパース市内を散策して空港へ向かい、最終日に無事日本へ帰国しました。

最後になりましたが、この研修はとても楽しく、新鮮で刺激的で全ての日程が大切な経験になりました。出会った方達との縁をこれからも大切に、この経験を活かしていきます。ありがとうございました。



少年ジェットマン「希望の翼」





「外国から伝わる学ぶもの」

岩見沢東高等学校2年 小野 美優

私

は小さい頃から海外のドラマや音楽に興味があり、外国に憧れていていつか行ってみたいと思ってました。なので、少年

ジェットがあることも知っていたし、ずっと行ってみたかったのですが習い事の大事な大会と重なるので諦めていましたが、今年高校2年で来年受験と被ってしまうので最後のチャンスだと思い、今回少年ジェットに申し込みました。

そして今回一緒にオーストラリアに行く9人のうち6人は高校2年生で、3人が高校1年生と同年と一つ下のメンバーだったのですが事前研修ではお互いのことを早く理解して団結することを意識していました。すぐに打ち解けられ、イングリッシュキャンプでは一緒に英語を学びながら夜はカードゲームをしたり、1番団結力が高まり英語もスキルアップした事前研修でした。そして私たちはいろんなことに挑戦し、困ったことがあればメンバーと協力することを目標に「We can do it!」をスローガンにしました。

オーストラリアに行く前は初対面の人に接するときはどうしても

消極的になりがちでしたが、オーストラリアに行って向こうでは初対面でもハグから始まるし、バディの友達ともたくさん会わせてもらいフレンドリーに接してもらってオーストラリアに行った後では初対面でも緊張したりせずまじ喋ってみたいすることが大事だと思うようになりました。

そしてオーストラリアに着いたら豊田さんというオーストラリアを案内してくれる方の車に乗ってコテスロビーチに行きました。日本のビーチとは違い白いサラサラの砂のビーチで色も綺麗な水色で足元まで浸かっただけでしたが楽しかったです。その次にキングスパークに行きました。ものすごく広い公園で、散策した後の自由時間では日向ぼっこをしていたのですが、日本と違い高温でもジメジメして蒸すことはないのですが乾燥がひどく日光も強いので、目や唇が乾燥したり喉がすぐ乾いたりなど日本とはちがう暑さに少しやられてしまいました。また自然が豊かな所でカラスなどの鳥もいたのですが、日本のカラスとは見た目と鳴き声の違い、見た目は日本



のより丸くて小さく鳴き声は全く違うほど聞き慣れなくて最初は違う鳥だと思うほどでした。そして昼食にハンバーガーを食べその日はそこからホテルに行き休憩してから、夕食を近くのビュッフェレストランに食べに行ったら、日本人の方がワーキングホリデーで働いていて、そういうシステムを知り自分もしてみたいと思いました。

次の日はいよいよホストファミリーとの対面でした。午前中は商事オーストラリアの美津江さんという方のもとで、ネイティブの先生と英会話レッスンをして日常で使うフレーズなどを習い近くのカフェで昼食を食べたらあつという間にホストファミリーとの対面の時間で緊張して午前中習った自己紹介の仕方も忘れてしまいました。ホストファミリーは事前に写真が渡されたので顔は知っていたのですが、実際に迎えて来た時に同じ年のララが写真とは違い髪の毛が赤くなっていてとても驚いたのと、メイクもバッチリで本当に同じ年か疑うほど大人びていた。そしてホストファミリーの家

に向かう車の中私は緊張しながらも、何か話さなくちゃと思い、年が同じことを話したのをきっかけにお互いの学校のことや日本の高校生がよくする事や放課後の遊び方などを話していて英語のスピードが速すぎてララとララのお母さんの会話を理解してYESと

いうのが精一杯でした。その日家に着いたあとみんなで夕食を食べるのかと思っていたらショッピングモールのレストランでララの両親と合流し台湾料理屋で夕食を食べてからは1日も両親と一緒に食事をしませんでした。ここで驚いたのはララは17歳だけどこでは運転できショッピングモールまではララの運転で行きました。同じ年なのに運転できて本当に驚きました。それに美津江さんも仰っていたのですがオーストラリアには食文化があまりなく、ショッピングモールでも外国の料理店ばかりでした。そして生活習慣にも驚きました。その後ララが家の近くのビーチに連れて行ってくれて日没を見たのですが海と合わさってとても綺麗でした。夜家に帰るとララもララの両親も寝室に行き8

時にはリビングは真っ暗でみんな9時には寝てしまつて、日本よりも早くてそしてあまりリビングでテレビを見たりしないのに驚きました。そして朝食もヨーグルト一個やパン一個で日本との違いに驚きました。

次の日からはバディと一緒にアクティビティだったのですが、カバジャムワイルトライフパークやAQWA水族館、またその次の日のミニゴルフもララの運転で行きました。アクティビティでは他のメンバーと再会することができ緊張もほぐれて少しほつとしました。そして他のメンバーのバディとも話したりできたのがとてもいい経験でした。ララともアクティビティを通して仲良くなりことができました。

そしてホストファミリーの家に来て4日目はララがララの親友2人を誘ってくれてボーリングに行きました。1人すぐく日本語が上手い子がいて、英語じゃなくて日本語でもたくさん話しました。その後日本食レストランに行きララの家でカラオケをして公園に行つて遊んで楽しかったです。最

後車でララの友達を送りお別れる時にみんなハグをしてくれて、せっかく仲良くなれて、英語もだんだん聞き取れるようになったのに、帰るのは嫌だなと思い始めて、たった4日しか一緒にいなかったけれど、英語をたくさん聞けて私の不慣れで下手くそな英語でもなんとか理解しようとしてくれて本当に嬉しかったし楽しくて次の日ララとはまたいつかパースに来ると約束をしてお別れをしました。

私はこの経験が無駄にしないように異文化や英語だけでなく、人という類では日本人と外国人も関係なく平等で初対面の相手でも隔てなくすることを日本人は建前を重視してあまりしませんが、今回それを学びました。今自分のやってみたい事や挑戦したいことがある人はやはりやってみないと分からないのと、挑戦する前はイメージだけだったものが実際に体験すると全然違って見えたり、また自分が思っていたほど難しいことではなかったりするのでたくさんやりたいことに挑戦した方がいいと思いました。





「自分を信じて挑戦」

岩見沢東高等学校 2年 廣岡 未来

海

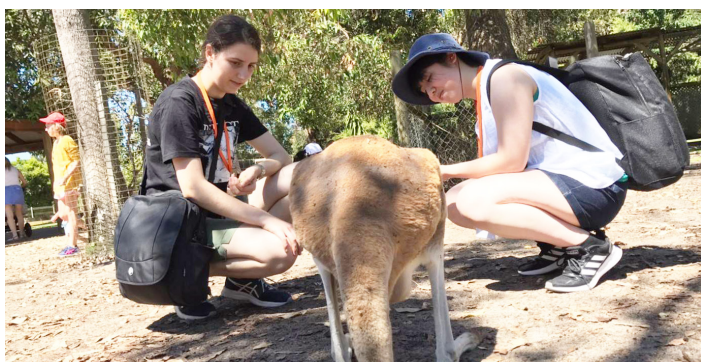
外へ行くということに
対しての憧れ。日本以
外の食文化に対する興味。自
分が学んできた英語がどれだ
け現地で通用するのかが知り
たい。この3点の理由から私
は少年ジェットに応募しまし
た。中学生の頃からずっと参
加したいと思っていたので、
今回参加することが出来たと
ても光栄です。少年ジェットの
の研修を通してたくさんの方
とを学び、成長できたのでは
ないかと思っています。

少年ジェットの研修を行う
にあたっての目標決めでは沢
山の案が出され、その中から
決まった目標は「We can do
it」。一人一人、意味の受け
取り方は違うと思いますが、
私は『すぐ諦めるのではなく、
「私ならできる。」と信じてま
ずは挑戦してみよう』という
意味で受け止め、この目標を
胸に研修を進めました。事前
研修では、互いに助け合える
関係作りが大切だと思っただ
けで、団員とできるだけ多くコ
ミュニケーションをとること

を心がけました。英語のスキ
ルアップを目的としたイング
リッシュキャンプでは、英語
の基本的なコミュニケーション
を学べてためになったし、
川俣町の中高生のとの繋がりが
できてとても良い経験がで
きたと思います。

現地研修を体験して、私は
英語に対する意識が変わった
と思います。研修前は英語に
苦手意識があり、なかなか積
極的に学ぼうと思わなかった
のですが、研修後は不得意な
英作文を諦めずに最後まで書
ききつたり、英語を積極的に
学ぼうとする意識が芽生えま
した。私たちが研修を行った
パースは、自然豊かで街並み
が綺麗で優しい方で溢れてい
るとても素敵な場所でした。
カメラを向けると通りすがり
の人がノリノリでポーズを
とってくれる、そんな温かい
人で溢れている場所でした。
研修の思い出をいくつか紹介
したいと思います。

1つ目は、ホテル泊の日に
団員で一部屋に集まって遊ん



だり話したりしたことです。オーストラリア滞在初日は慣れない土地なので不安でしたが、心強い団員と沢山話せたから乗り切ることが出来たし、ホームステイ終了後、ホストファミリーとの別れの寂しさが大きかったのですが、団員とホストファミリーとの思い出等を共有し合え楽しかったので、とても濃い時間だったと思います。

2つ目は、ホストファミリーとの対面です。自分の英語は上手く伝わるのか。会話は聞き取れるのか。そんな不安を抱えたまま対面しましたが、ホストファミリーは私をとて優しく受け入れてくれて、不安がすぐに無くなったのを覚えています。英語がままならない私を優しく受け入れてくれたホストファミリーのおかげで、自分の英語力を最大限に試すことができ、語学力の無さを再確認することが出来たのでホストファミリーには感謝しかありません。対面後の車の中では、私の好

きな食べ物聞いてくれて、それをもとにホームステイ中の食事を作ってもらったのがとても嬉しかったです。私のためにわざわざ白米を買ってくれて、炊いてくれた時は本当に感動しました。

3つ目は、毎晩紅茶を飲みながらホストファミリーとの交流を深めたことです。パディと一緒に映画を選んだり、特技の皿回しやジャグリングを教えてもらったり、逆に日本の映画をオススメしたり、けん玉を教えたり、文化交流も出来ました。家族全員でジェンガをしたり、笑いが絶えず家族の時間を大事にする習慣はとても素敵だなと思いました。日中もティータイムがあり、クッキー等を食べながら雑談をしたりするのも楽しかったです。

ホームステイ初日に人見知りをして自分から話しかけに行けなかったのも、もっとパディとやりたいことがあったのに出来なかったことが唯一の後悔です。ロットネスト島

で日焼け止めを塗り足りなくて、日本に帰ってきてからも服が擦れるだけで痛いくらい酷い日焼けをしたのもいい思い出です。

その他にも、オーストラリア滞在最終日の自由散策でグループ別に行動していたはずがいつの間にか団員全員が集合するなどジェットメンバーの仲の良さが見えて、このメンバーで研修ができて良かったと思う場面も沢山ありました。また、少年ジェットへの参加理由のひとつでもあった「海外の食文化を知る」ということも達成出来て良かったです。1番驚いたのは、ポテトフライにビネガーをたっぷりかけて食べていたことです。なかなか日本では目にしないので、そういう食べ方もあるんだなと勉強になりました。また、日本に比べて食事に野菜が少なく、その代わりフルーツが多かったのが意外でした。このような経験から他の国の食文化も知りたいという気持ちが強まりました。

今回の研修で、たくさんの貴重な経験をさせて頂き、一回り、二回り成長できたのではないかと思います。特に成長したと感じるのは、今まで自分の意見をはっきり言うことが苦手だったのですが、言わないと伝わらないということが英語で生活することにより実感したので、なるべく自分の意見を言おうと心がけるようになったことです。この経験を忘れず、まずは大学受験、そして将来の夢である幼稚園教諭になれるよう、努力していきたいと思います。

苦手なことから逃げていても何も始まりません。まずは挑戦してみることが大事です。少年ジェットは必ず自分を成長させてくれると思います。参加して、損は無いです。ですので、是非、応募してみてください!!





「世界に1歩目」

岩見沢農業高等学校2年 古岡 姫花

私

は今回の研修で多くの学びを得ました。少年ジェットには将来に少しでも繋がるようにと、海外の食文化に触れたいと思い、また、自分の視野を広げたく応募しました。英語スキルの向上と異国の地での生活スタイル、様々なことについて学びたいと思い参加を決意しました。

事前研修ではALTの先生やOBの方が来てくれました。その頃は本研修に向けての実感が湧かず少し不思議な感覚でした。英語は基本的な勉強をし、現地で使えるような文法を学びました。私がオーストラリアに行きホストファミリーに何を伝えたいのか、どのような会話をしたいのかを明確にし、その内容に沿った勉強を家で予習しつつ事前研修を受けました。またお土産作りで藍染をするなど手作りを渡すので気持ちがいっぱい。もった作品がそれぞれ出来たと思います。事前研修で派遣団員と決めて決めたスローガン「We can do it!」の達成を

志し、積極的にコミュニケーションをとりに行く・周りに気を配る・時間・約束事を守るなど現地で取り組みました。日本に帰国し食文化の違いを生活していくことで比較することが多くなりました。また、外に掲示されてある広告などの英語を自然に読み上げたりなど私の中の意識が高まりました。

一番思い出深いのは屋外映画にホストファミリーと行ったことです。普段なかなか見ることのない外での映画はとても新鮮味があり、木々に囲まれながら食べ物を持ち寄って寝転びながら鑑賞することに私は感動しました。字幕もついてる訳でもなく、私にはハードルが高いかと思いましたが意外と聞き取ることができ内容を理解することができたため、終わったあとはバディと感想を言い合えるなど素晴らしい体験になりました。また、日本とは交通ルールが違い、信号の高さが低かったり赤が点滅していても



渡ることができません。車に乗ると全員がシートベルトをしないと交通違反になってしまいます。シートベルトをするところは当たり前ですが、日本では後ろの席の人まですることは数少ないと思うので、ルールも日本とは違うので神経質になることが多かったです。このようなことを気にかける大切さにも気づくことが出来ました。ホストマザーにフリーマントルに連れてつて

かけてしまいました。ですが、帰国後はこのような経験もでき良かったと思うようになりました。私を気にかけてくれるホストファミリーや派遣団員達がいて改めて私は周りの環境に恵まれていると感じることが出来ました。私のバディは少し自由なところがあり一緒に写っている写真が少なかったのも、もう少し交流を増やしたかったです。

もらい、お店に入ると「こんにちは、元気ですか？」など英語で話しかけられることがあり最初は戸惑いましたが徐々に慣れていくにつれ楽しくなりました。そして市内他、ロットネスト島に行けば日本では見られない美しい海に足を運ぶことができ、透明感がありエメラルドグリーンが広がる海を見ることができ良かったです。

ただ、私は現地で体調を崩してしまい中々思うように楽しむことが出来ませんでした。また、多数の方に迷惑を

いと思って貰えるようなスイーツを作りたいと強く思いました。高校卒業後、進学した際にはこの研修が私にとって貴重な経験となりこれからの事に役立つと思います。そして私が目的としていた食文化についてはオーストラリアには固定の食文化はなく、多数の人種が暮らしている事が分かりました。このように現地に行くことで新しい発見がありました。未知の世界に一步步踏み込んで新しいことにも挑戦したいという気持ちも湧き、いつの日かまた海外に行ってみたい気持ちも芽生えました。拙い英語でしたが少しはコミュニケーションを図ることができ、これからの自分に少し自信がついたと思います。それでも勉強を怠らずにもっと向上を目指して行きたいと思います。

応募した時に私は楽しく笑顔で終わりたいと言いました。私自身が体調不良などありました但最终的には笑顔で帰国を迎えて良かったと思

いました。まだまだ未熟な私ですが、支えて頂いた少年ジェットに参加させてくれた保護者、関係者の皆様、栗山町に恩返しを出来るよう今回の研修を活かし、成長していきたいと思いました。本当にありがとうございました。この経験は私にとって財産となりました。

これから少年ジェット「希望の翼」に参加する方は海外に行ける貴重な経験は中々ないので栗山町や関係者の方々に感謝をし、本研修に臨む際には目的を持ち、これから色々な事に挑んで欲しいと思います。

私は、世界を視野に入れることで新しい考えが生まれました。また、将来の自分にとって良い刺激となり新しい活力になってくれます。失敗を恐れずに何事にも挑戦して欲しいです。そして、仲間を大切に助け合う心を忘れずこれからの日常も過ごして欲しいです。



少年ジェット「希望の翼」





「思い出からの決意」

栗山高等学校2年 浅井 あみか

私

は今回、海外に行くのが、事前研修、2泊3日の

イングリッシュキャンプで学んだことをオーストラリアで実現することが出来ました。その事前研修の第1回目では、顔も名前も知らない初対面の人ばかりでしたが、研修を続けるにつれ距離を縮めることが出来ました。2泊3日のイングリッシュキャンプでは、1日中英語尽くして日本語が恋しくなりましたが、この研修に協力してくださった先生の授業は身につけるものがたくさんありました。日本を出発する日がどんどん近づくにつれドキドキと不安がありました。日本を発つ日、千歳から中部国際空港、中部国際空港から香港、香港からパースまでの距離がとても長いと思いつつも短いと感じました。日本との時差は1時間しかありませんでしたが、時が過ぎるのが早いのではとその時思いま

した。私に未熟なところもありつつ、ホームステイ1日目はホームステイの家族の皆さんと出会い、最初は単語やジェスチャーなどをしながら会話をし、ホームステイ先の家族と夕日を見に行くことになり海岸線に沈んでいく様子を一緒に見ながら食事とともに味わいました。夕日を見ながらつつた食事でバディと写真を撮りました。バディとはとても仲の良い友達になりました。

また、私は色々な楽器を演奏してきましたが、伝統あるオーストラリアでは男性を中心に演奏することに驚きました。私は、トランペットを演奏しますが、オーストラリアの楽器を演奏する時トランペットと同様簡単だと思っていました。ですが、トランペットとは全然違いました。オーストラリアの楽器は、トランペットより難しく息遣いが大変でした。ドレミも音を出す





には、唇や息の使い方を変えなければならなかったのだ、とても大変でしたが楽しかったです。

バディとの遠足では、みんなと色々な動物を見たりお弁当を食べたり、カンガルーに餌をあげたりして日本の動物園ではカンガルーに餌をあげたりするのはあまり出来ないの、今回の体験はとても興味深いものでした。また、コアラに触ることもでき、柔らかい感触が忘れられません。ウォンバットにも初めて会い、

触れ合い体験の人気アニメだと初めて知りました。私は、動物が大好きですが、オーストラリアの動物園に行つてから今では、動物のことをとても大好きになりました。例えば、動物の写真を見たり動画を見るたび可愛いと思つてゐるからです。特に、カンガルーやコアラの写真を見るたび可愛いと思つてゐます。

ホームステイ最終日、少しずつでしたが英会話が成り立つてバディと1日過ごすとき、バディがオスメのお土産を選んでくれました。そのお土産は家族やバイト先の方々にも喜んでいただくことができました。また、バディの友達とカラオケをしたり写真を撮ったり自分自身のお土産を買いに行ったりしました。ホームステイのご家族と会話を楽しみながらBBQをしたのは最初で最後の体験をさせていただきました。

その次の日には、ホーム

ステイの家族と別れる際「まだホームステイをしたい」「日本に帰りたくない」などの感情もありました。その後、ジェット島の仲間たちとロットネスト島に行きました。その日は、とても日差しが暑かったり、眩しかったりして、日焼けをしてしまい、ホテルのシャワーでもヒリヒリと痛みました。ですが、日焼けをしたことは楽しかった証拠だと思えます。

日本に帰る日が来て、また最初の日と同じく距離が長いと思いつつ短いと感じながらパスを發ちました。日本について私は、「はあ、とうとう帰つてきてしまったな」「冬休みが終わると、学校が始まつてしまふ、オーストラリアに帰りたい」と思つてしまつたが両親や姉妹にパースに行つて学んだことを話すとき、とても思ひ出のあることを何度も何度も話しました。それから私は、もつともつと勉強を

したり、色々な国に訪れたいと思いましたが、またオーストラリアで短期ではなく長期でホームステイを目的に、勉強をしに行きたいと思うほどのたくさんの良い思い出になりました。これからの将来の夢に、この研修を思い出しながら、いつか英語を使った職業に就きたいと思ひます。





「異文化との違い」

岩見沢農業高等学校 1年 大高 和希

私

が今回この研修に参加

した理由は、私はこれまで栗山の姉妹都市研修や育成会などの様々な研修に参加し、地方ごとの文化の違いを体験してきました。しかし、外国にはまだ一度も行ったことはなく、身近な文化と他の地方の文化だけでなく、外国の文化の違いをこの身で体験できると聞き、参加しました。

オーストラリアに行く前の事前研修では、研修を共にする仲間とのアイスブレイクやオーストラリアについての基本的な情報や知識を説明してもらったり、英語の勉強など様々な研修をしました。最初はメンバーと馴染めるかどうかとても心配でしたが、事前研修を通じてその心配はなくなり、このメンバーでオーストラリアに行くことが楽しみになっていきました。外国は初めてなのでとても不安でしたが、難しいこともいっぱいありました。

まず最初に変だったことは、オーストラリアまでの

飛行機です。飛行機は何度も乗ったことがありましたが、狭い空間で長時間座ったままで、それも機体は時々激しく左右に揺れていたため着いた時には具合があまり良くなく、座っているだけでしたがとても疲れました。

その次に変だったのが、一番最初にホストファミリーと対面したときです。大変というよりは言葉がすっかり伝わるかどうかなど、いろいろなことを考えてしまっていたので不安が大きかったです。オーストラリアの環境に慣れていなかったのか、とても疲れており、あまり上手に英語が話せていなかったのでおさら不安が増えました。しかし、それ以降はバディとの様々な研修により、少しずつオーストラリアの環境にも慣れていくことができたと思います。

その他に変だったことは、オーストラリアドルの仕様がとても戸惑いました。どれが何ドルでどれが何セント





なのかなど最初は全くわからず、早く会計を済ませなければという気持ちから紙幣で支払ってしまいコインが財布いっぱいになってしまったことがありました。

もちろん、初めての外国は難しいことばかりでなく、楽しいことや面白いこともありました。オーストラリアで一番最初に思ったのが、景観が良いというより美しすぎると思いました。どこの写真を撮ってもとても綺麗に写り、とても良い場所だと思いました。ほかには、個人的にロケットネスト島でのサイクリング

がとても気持ち良くて楽しかったです。サイクリングの後の海水浴は最高でした。

そして、今回この研修に参加した目的の日本と外国の文化の違いについてですが、とても多くの違いを見つけたことができました。まず、パースには四季がないそうで、夏は毎日晴れていて乾燥し、冬に雨が降るそうです。私が今行った時期は夏で毎日27度から33度ほどでしたが、私が行く一週間ほど前は40度を超えるほどの猛暑日だったそうです。しかし、研修の中で思ったのが、気温はとても高いはずなのに体感ではとても過ごしやすい気がしました。日本の夏の暑さは日差しがとて強く、外にしていると肌が焼けるように熱く感じるのに対し、パースはそうではなく日差しはとて強く気温も高いのですが、何故か長時間、外にいてもとても過ごしやすく感じました。ほかには、外国人はマイペースだなと思いました。なぜかという、日本

では10分前行動、5分前到着というほど時間にはしつかりしています。しかし、外国人は時間に遅れて行くのが当たり前。という考えがあるそう。話には聞いていましたが本当なんだと正直びっくりしました。それと、食文化の違いにはもつとびっくりしました。朝食が少なく、間食が少し多い印象でした。米が食事の中でも少なく、あったとしても日本の米が恋しくなりました。水もオーストラリアよりは日本の方が美味しく感じました。なので、食文化に関しては日本に住んでいて幸せなんだと改めて実感できるいい機会になりました。ほかには気候帯の違いなのか、スーパーなどに売っている水は日本に比べてとても価値が高く1ドルから2ドルほどしたり、サッカーや野球といったスポーツよりもオーストラリアではゴルフやアメリカンフットボールの方が主流であることを知りました。こ

のように、日本とオーストラリアの様々な文化の違いを知ることができて本当に良かったと思います。個人的に気候や景観などはオーストラリアの方が綺麗で過ごしやすいと思います。しかし、食の面では日本の圧勝だと思います。このように文化の比較ができてとても面白かったです。

今回の研修での反省点は、一度遅刻してしまったことです。事前研修の時に時間は厳守する、という目標を立てていたのにもかかわらず時間にルーズになってしまい、このようなことは今後の人生で無くしていければいいなと思いました。今回の研修で、私は本当にオーストラリアのことが好きになったので、個人的な旅行か、ワーキングホリデーによる滞在なのかはわかりませんが、将来必ずもう一度オーストラリアに行きたいと思いました。そして、このような機会をくださり誠にありがとうございました。





栗山高等学校1年 後藤 陽太

今

回、少年ジェットに参加して色々な事を学びました。まず、事前研修は9回行いました。1回目はみんな緊張していました、みんな初対面ではなかったけれど、今まで深く関わりがなかったの、コミュニケーションを取り、ゲーム形式で仲を深めました。1分以内に名前を五十音順に並んだり、自分の趣味などを書いて自己紹介をしました。2回目は1回目と同じくコミュニケーションを取り、オーストラリアのパールスに行った時のスケジュールとかをやりました。3回目から英語の先生と一緒に英語レッスンをしました。英語のレッスンは楽しみながら英語でのコミュニケーションの仕方や単語の意味とかを学びました。4回目も3回目と変わらず英語レッスンと単語、コミュニケーションをやりました。5回目は福島から来た中学生と高校生と混ざってイングリッシュキャンプをしました。2泊3日と短い期間でし

たが、とてもためになったと思います。内容は買い物の方、道案内の仕方やさまざまな事を教わりました。6回目はみんなで2つの班に分かれて、共通点を出すと言う遊びをして交流を深めました。7回目はオーストラリアに持って行ってホストファミリーの人達にあげるお土産を作りました。喜んでくれて良かったです。8回目は午前中はOB交流会を行い、これを持って行った方が良いなど色々聞いたりしました。午後からは団旗作りに入りました。みんな頑張っていました。9回目もずっと団旗作りをみんなでした。事前研修はこれで終わりました。それで、なぜこの少年ジェットに参加しようと思ったかの理由の1つ目は、自分の英語力がどれぐらいかを試したかったからです。2つ目は外国の文化や歴史に興味があり、コミュニケーションを取ってみたいと思ったからです。それで、ジェットメンバー10人や少年





ジェット関係者の皆で研修をたくさん行いました。そして、1月5日に日本からパースへ向かいました。

1日目はずっと飛行機に乗っていたので、みんな疲れていましたが、2日目の朝5時に着きそこから車で移動しながらパースの海に行ったり、フリーマントルやキングスパークなどに行かせてもらいました。

3日目はホテルを出て、コミュニティセンターに着いてオリエンテーションと英語レッスンをし、いよいよホストファミリーとの対面でした。

た。最初はみんな慣れない場所です。1人になるので、緊張や不安で一杯でした。でも、ホストファミリーの方々はとても優しくあやふやな英語を真剣に聞き取るうとしてくれたりして、とても優しい人たちでした。

4日目はバディ達とアクティビティで、水族館に行ったりカバジャムワイルドライフパークなど色々行きました。それでまたホストファミリーの家に泊めさせてもらいました。ホストファミリーの家に泊まって2日目だったので、だんだん慣れてきました。

5日目は、ミニゴルフとピクニック、アボリジニ文化体験をしました。ミニゴルフはみんなと楽しくできて良かったです。アボリジニ文化体験ディジュリドゥはオーストラリアの歴史や文化を知れてとても良い経験になったと思います。

6日目はホストファミリーと一日過ごすというプランで自分は海に行きたいと行った

ら連れて行ってくれました。

7日目の朝でホストファミリーとはお別れをし、そして、フェリーに乗り、ロットネスト島に着きそこから自転車漕いでビーチに向かいみんな海に入って遊びました。その後、交通機関を使ってホテルに戻りました。

8日目はオーストラリアのパースに居られるのはラストだったので、最後はパースを散策し、午後からは2つの班に分かれて自由行動でお土産を買ったりしました。それで各班ホテルに集まり、車に乗り空港に向かいました。

8日目の夜から飛行機に乗り、9日目の夕方の5時に着きました。新千歳空港からのバスではみんな疲れた様子でした。

今回、研修の中でパースで成功した事は英語がちょっとだけでも聞き取る事が出来るようになった気がしました。失敗した事は道に迷って迷子になり、集合時間に遅れてみんなに迷惑をかけた事です。

次に今後どうして行きたいかはせっかく外国に行って英語やコミュニケーションを学んだので、それを活かしてボランティアなどに積極的に参加したいです。そして、メッセーは栗山町役場の人達や保護者の方々、少年ジェットの関係者の人に感謝します。このような行事に参加させていたでいて、普通はできない貴重な体験をさせていただきました、ありがとうございます。本当にありがとうございました！





「かけがえのない経験」

札幌日本大学高等学校 1年 橋元 友菜

少

年ジェットに参加すること、それは小学生の頃からの夢でした。以前から海外研修に興味があった私は母親の紹介で少年ジェットを知りました。

中学生になったらすぐに応募したい！とも思いましたが、しっかり英語を話せるようになってから参加した方がより多くのことを経験できるのではないかと考え、高校生になってから応募しようと決めました。今回、無事に選考を通過することができたときはとても嬉しかったです。事前研修のイングリッシュキャンプでは自分の話す英語を褒めてもらい、自信を持つことができました。その後も何度か事前研修を重ね、遂にオーストラリアに向かう日を迎えました。不安なことも沢山あったけれどその時の私はわくわくの気持ちでいっぱいでした。

現地へ着いてすぐ、日本人のガイドさんに案内して頂いてパース市内を観光しました。初めて行ったコテスロビーチは今までに見たことがないほど綺麗な青色で、長時間のフライトでの疲

れも吹き飛ばすようでした。その後もとても大きなハンバーガーとたくさんのポテト（オーストラリアではチップスと言うそうです）を昼食に食べたり、金の延べ棒を作るショーを見たり、ホテルに着く頃にはくたくたになるほどたくさんの場所へ行きました。夕食後、飲み物などの買い出しも兼ねて街へ出るとまだ19時頃だったにも関わらず殆どのお店が閉まってしまっていてスーパーやコンビニにしか行くことができませんでした。日本では街中のお店はもう少し遅くまで開いているので感覚の違いにとても驚きました。

3日目。午前中に英会話レッスンを受けたあと、遂にホストファミリーとの対面です。ホストマザーが私を迎えに来てくださり、祖父母の家に預けているという3人の子どもと一緒に迎えに行きました。車の中では少し会話を交わしましたが何と云っているか理解することができず、これからの数日間が少し不安になりました。ナターシャ（14歳）、デ克蘭（12歳）、アリーシャ（8



歳)の3人に会い、また車に乗って家へと向かいました。私の隣に乗っていたアリーシャはたくさん話しかけてくれました。上手く会話ができない部分もあったけれど、アリーシャは私がかかるまで何度も説明してくれた。り他のみんなも助けてくれたりしてなんとか会話をすることができました。とても優しい人たちでとても安心しました。夕方、アリーシャにトランプをしようかと誘われ、何かゲームを教えてほしいと言われたのでスピードを教えてあげました。アリーシャに限らずホストファミリーは誰もこのゲームを知らなかったことに驚き、有名なのは日本だけなのかもしれないと思いました。

4日目、5日目はバディや団員のみんなと一緒に様々なところへ行きました。カバシャムワイルドライフパークではカンガルーやコアラのようなオーストラリアらしい動物たちと触れ合いました。中でも蛇を持って記念撮影をしたことがとても印象に残っています。その後のショッピングでは、スラッシュという

飲み物を飲みました。たくさん種類があるシャーベットやかき氷のようなフレーバーをカップに好きなように入れることができるもので、現地ではメジャーな飲み物だそうです。この日の夜もトランプをして、「フィッシュ」というゲームを教えてもらいました。今までにやったことがないゲームだったので家族や友人に教えて日本でもやってみたいと思います。私は「ページワン」を

教えたのですがこのゲームも知らなかったようで、次は「流石に知っているかも…」と思いながら「ババ抜き」を教えました。すると、このゲームも知らなかったそうです。とても驚き、国によって有名なゲームは違うんだなとはつきり感じました。また、持ってきていた栗山のパンフレットを渡して自分の住む街について紹介しました。写真も使いながらいろんなことを話すとホストファミリーの皆さんはとても興味をもって聞いてくれました。

6日目は1日中ホストファミリーと過ごす日でした。ホストマザーは数日前からこの日の予

定を考えていてくれて、まずは海へシュノーケリングに行きました。初めてのシュノーケリングでしたがナターシャに手を引いてもらいながら沢山の魚が泳ぐ綺麗な海を見ることができました。自分では上手くできなかったけれどナターシャに手伝ってもらって魚の写真を撮ることもできました。そのあとマーケットへ行行って買い物をしたり、もう一度海に行ったり、映画を観たり…本当にたくさんさんの事をしました。初日に感じてた不安もこの数日を過ごすうちに全くなくなり、いろんな会話もしながら最高の日を過ごすことができました。

7日目。お別れの日はやっぱ寂しかったですが、別れ際にホストマザーが「パースに来る時は連絡してね。また会おうね!」と言ってくださり、いつかもう一度この場所へ来よう、そう思いました。その後は団員とロットネスト島へ行き自転車で島を回りました。眩しい太陽に照らされた砂浜は、裸足で歩こうとすると足の裏が焼けるような熱さでした。8日目は2班に分かれてパー

ス市内を散策予定でしたが途中もう1つの班に会い、最終的にみんなで散策しました。そして、オーストラリアとお別れです。

私は少年ジェットに参加して、たくさんのことを学び、そして大きく成長することができたと思います。オーストラリアでの日々の中には日本にはいてはわからなかったであろう沢山の発見がありました。また、「積極的に会話をすること」「日本のことを紹介すること」など事前に目標としていたこともしっかり達成することができました。日本に戻ってきてからは何か物事について考える時に「オーストラリアではこうだった」という視点が加わり、今までより視野が広がりました。私にとってこの経験は一生の宝物です。団員やホストファミリーなど少年ジェットで出会った人々との繋がりはこれから大切にしていきたいです。そして、私が少年ジェットに参加することができたのは家族やたくさんの人たちの協力があったからです。本当にありがとうございました。



少年ジェット「希望の翼」





少年ジェット「希望の翼」 活動をプレイバック

少年ジェット「希望の翼」



事前研修

英語漬けの3日間 今年も

栗山で研修 町内と福島県川俣町の中高生25人



講師は外国人 将来の夢など発表

栗山町内と福島県川俣町の中高生25人が参加した。栗山の栗山中学校で、講師は外国人。将来の夢など発表。栗山町内と福島県川俣町の中高生25人が参加した。栗山の栗山中学校で、講師は外国人。将来の夢など発表。



アイスブレイク



団旗づくり

11月6日(水) 北海道新聞(空知版)

少年ジェット「希望の翼」を行うにあたり、全9回の事前研修を行いました。序盤は目標決めや仲を深めるために、アイスブレイクやグループワークを実施。緊張が徐々にほぐれ、距離も縮んでいく様子が見受けられました。英語レッスンでは、ALTのテッサ先生による講座を行い、11月に2泊3日の英語コミュニケーションスキル研修に参加し、福島県川俣町の参加者たちと英語漬けの生活を送りました。出発を直前に控える12月、上旬には革芸草木染サークルの佐藤キミ子さんの指導の下、ホストに渡すお土産の藍染手ぬぐいを作成。また、スローガンやデザインを団員達で考え、団旗を作りました。全9回の事前研修を通して、英語のスキルアップはもちろん、団員同士の中も深まり、目標に向かって進むという意識が芽生えた事前研修でした。

現地研修

くりやまちょう 栗山町 - Kuriyama Town -

トップ < 暮らし 健康・福祉 教育・文化 観光・魅力 産業・しごと 行政・まちづくり

経緯 > 広域交流・情報グループ 経緯 > まちのニュース

異国の地で挑戦と体験を * 第30回少年ジェット「希望の翼」出発式

第30回少年ジェット「希望の翼」の出発式が6日、総合福祉センター（以下「センター」）で行われました。今回は「We can do it!」をテーマに、団員10人が参加。オーストラリアのバスで日間の研修を行い、現地の生活や文化を体験します。南後志教育長は「声をかけられたら、どんなことでもチャレンジしてほしい」とあいさつ。団長の福井佳幸さん（岩見沢西高校2年）は「多くの人の協力により研修に出発できます。色々なことに挑戦したいです」と話していました。



1月6日(月) 栗山町ホームページに掲載

iwamatz@hokkaido-ne.co.jp
0125-24-7145
滝川支局 滝川市明神町3-2-26
栗山支局 0123-72-0034
夕張支局 0123-52-2201
夕張市本町5-17
南別支局 0124-22-3116
南別市北1東2-7
深川支局 0164-22-2838
深川市5条15-1

高校生「挑戦」誓い豪州へ 栗山の海外研修、少年ジェット「希望の翼」が10日からオーストラリアへ出発。栗山の高校生が、海外研修「希望の翼」の一環として、オーストラリアへ出発。栗山の高校生が、海外研修「希望の翼」の一環として、オーストラリアへ出発。

受講生随時募集! http://www.doshin-cc.com/ 札幌道新文化センター 札幌市中央区南5条5丁目4番地 道新文化センター 札幌市中央区南5条5丁目4番地 道新文化センター



1月6日(月) 北海道新聞（空知版）

くりやまちょう 栗山町 - Kuriyama Town -

トップ < 暮らし 健康・福祉 教育・文化 観光・魅力 産業・しごと 行政・まちづくり

経緯 > 広域交流・情報グループ 経緯 > まちのニュース

学んだ経験将来に活かして * 第30回少年ジェット「希望の翼」解散式

第30回少年ジェット「希望の翼」の解散式が13日、総合福祉センター（以下「センター」）で行われました。今回は「We can do it!」をテーマに、団員10人が参加。オーストラリアのバスで日間の研修を行い、現地の生活や文化を体験しました。南後志教育長は「声をかけられたら、どんなことでもチャレンジしてほしい」とあいさつ。団長の福井佳幸さん（岩見沢西高校2年）は「多くの人の協力により研修に出発できます。色々なことに挑戦したいです」と話していました。



1月14日(火) 栗山町ホームページに掲載

少年ジェットさんはArt Gallery of Western Australiaにいます。 1月12日、バス（オーストラリア・西オーストラリア州）へ。

8日目スタート＊オーストラリア最終日

オーストラリアで過ごす最後の日。本日は... もっと見る



写真・動画等で活動の様子を Facebook に投稿




事後研修

少年ジェット「希望の翼」

派遣団員の感想

第1回事後研修（くりとくら）



広報くりやま2月号 少年ジェット「希望の翼」特集記事

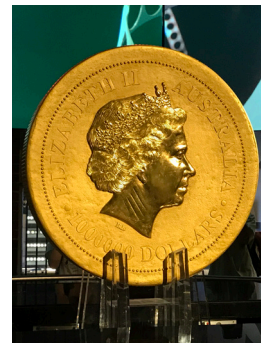
帰国後、2回の事後研修を行いました。最初の研修では、少年ジェットOGで地域おこし協力隊の金谷美咲さんから当時の思い出や現在の活動について紹介。話をともに、全員で将来に向けた未来予想図の設計を行いました。2回目は、PR動画づくりを行い、活動を振り返ると同時に、次年度以降に繋がる取り組みを行いました。新型コロナウイルスの影響から、例年行っている研修報告会（国際交流のつどい）は残念ながら中止となりましたが、非常に内容の濃い、貴重な事後研修を行うことができました。

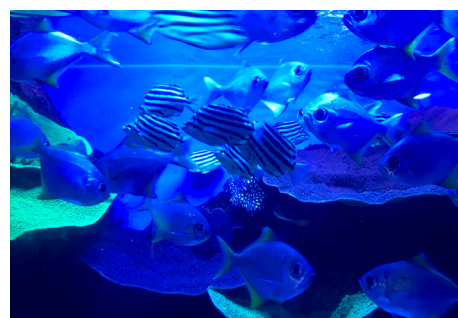
第1回事後研修（くりとくら）



PR動画作業風景







International Departures						
AIRLINE	FLIGHT	DESTINATION	TIME	EST	STATUS	GATE
FLYSCOOTER	FR 17	Singapore	21:15	21:40	Delayed	54
ANA	NH 882	Tokyo (Narita)	21:55	21:55	Final Call	52
QANTAS	QF 8421	Dubai	22:20	22:20	Boarding	51
QATAR	QR 901	Doha	22:50	22:50	On-time	50
AIR NEW ZEALAND	NZ 3081	Johannesburg	23:45	23:45	On-time	53
Flights for Monday 13 January 2020						
FERRET	AY 5846	Hong Kong	00:10+	00:10+	On-time	51
QANTAS	QF 335	Guangzhou	00:25+	00:25+	On-time	54
THAI AIRWAYS	TK 9309	Singapore	01:10+	01:10+	On-time	52
Malindo	OD 156	Kuala Lumpur	01:20+	03:00+	Delayed	53
QATAR	QR 5019	Kuala Lumpur	02:25+	02:25+	On-time	51
QANTAS	QF 8425	Dubai	05:55+	05:55+	On-time	52



令和2年発行
発行／栗山町教育委員会・少年ジェット「希望の翼」実行委員会
〒069-1513 北海道夕張郡栗山町朝日4丁目9番地36
TEL0123-72-1117／FAX0123-72-6522